

1. 授業のねらい・概要

経済学、経営学などの分野で用いられる、さまざまな数学的な考え方や数学的手法を理解し、応用するための有効な数学の知識を学ぶ。

2. 授業の進め方

講義形式

3. 授業計画

1. 連立方程式、二次関数	9. 弾力性
2. 一次関数、二次方程式	10. 関数の積の微分、合成関数の微分
3. 指数関数	11. 分数関数の微分
4. 対数法則、	12. 指数関数・対数関数の微分
5. 指数方程式・不等式	13. 多変数関数、偏微分
6. 等比数列	14. 条件付き最大化問題
7. 平均変化率、微分係数、導関数	15. ラグランジュの未定乗数法
8. 増加・減少、極大・極小	

4. 到達目標

1. 経営学などの分野で用いられる数学的な考え方の基礎を理解できるようになる。
2. 経営学などの分野で用いられる基本的な数学的手法を扱うことができるようになる。

5. 準備学修に必要な時間、またはそれに準じる程度の具体的な学修内容

授業前に教科書の該当する部分に通しておくこと。

6. 成績評価の方法・基準

定期試験の点数で評価する。平素の活動状況も評価の参考にする。

7. テキスト・参考文献

西森晃, これから経済学をまなぶ人のための数学基礎レッスン, 日本経済評論社, 2012

8. 受講上の留意事項

履修者の学修時間が「学則が規定する学修時間の90% (2単位 90時間×0.9=81時間) に満たない」と科目担当者が判断した場合には、「本科目を履修した」といえないので、定期試験を受けられない。

ただし、授業外の学修時間は定期試験の結果から推定するので、「受験は暫定的に認めるが、その結果から学修時間不足と推定した場合には受験資格なしとみなす」ということもあり、その場合は再試験も受けられなくなる。

なお、授業時の学修時間は出席状況で計算するが、欠席の場合も「証明書等を完備した欠席届が、欠席後最初の授業出席時まで提出された場合」に限り、学修時間の一部を算入することもある。

詳細は1回目の授業時に説明するので出席すること。因みに、欠席届の期限内提出がなく欠席5回以上の場合には、定期試験を受けられないことが確定する。